

万博設計企画 「RE:俳優設計」

3/1(水) 7:15 ① 講師:筒井潤 (dracom)
2(木) 7:15 ② リアリティーの立ち位置 (全2回) 参加費 / 500円 (要予約)

旅劇

9(木) 7:30 ウイングフィールド提携公演
10(金) 7:30 作/サカイヒロト (WI'RE) 演出/樋口ミュ (Plant M)
11(土) 2:00 「あたらしいなみ」
6:00
12(日) 3:00 出演/プロジェクト KUTO-10 料金/一般前売 3,000円 一般当日 3,300円

「第19回 関西現代演劇俳優賞」授賞式

13(月) 6:30 (6:00 開場) 主催/現代演技論研究会

万博設計企画 「RE:俳優設計」

15(水) 7:15 ① 講師:橋本匡市 (万博設計)
22(水) 7:15 ② 演出助手は見た!現場に愛される俳優がしているたった1つの事 (全2回) 参加費 / 500円 (要予約)

常劇

18(土) 3:00 ウイングフィールド提携公演
7:00 作・構成・演出/杉本奈月
19(日) 11:00 「blue / amber」
3:00 【A】「居坐りのひ/月並みにつぐ」【B】水平と婉曲
7:00
20(月・祝) 11:00 出演/N2
3:00 料金/二作品前売 3,000円 一作品前売 2,300円
公演詳細は劇団ホームページをご覧ください (http://gekidann2.blogspot.jp)

万博設計企画 「RE:俳優設計」

23(木) 7:30 ① 講師:泉寛介 (baghdad café)
30(木) 7:30 ② あなたは仕事と演劇について考えたことありますか。(全2回) 参加費 / 500円 (要予約)

大阪府立淀川工科高等学校演劇部卒業公演

25(土) 7:00 作/マヌエル・プイグ 潤色/萩原一哉 演出/柴田純
26(日) 1:00 「蜘蛛女のキス」
5:00 出演/大阪府立淀川工科高等学校演劇部 料金/無料

「大竹野正典劇集成」を楽しむ 一緒に読んでみよう5

28(火) 7:00 「愛の棲家」くじら「本」会議*予約制 会費/大人 1,000円 学生 500円

※チケット券種、割引情報等は各団体のチラシ、ホームページ等をご確認下さい。

冒険心が飛翔する“100人の戯空間”

ウイング フィールド

F542-0083 大阪市中央区東心斎橋2-1-27 周防町ウイングス6F

TEL(06)6211-8427 FAX(06)6211-6312

ウイングフィールド公式サイト URL http://www.wing-f.co.jp

感無量寿経 その201

introduction

イトウワカナ

「芸風が定まらない」と言われてだいぶ経つ。お笑いでもないし、ギャグ満載な演劇ではないけどなんとなく、言わんとすることはわかるのでなるとも思ってきた。なんなら、「芸風が定まらないでおなじみです!」とか言ってきた。芸風が定まらない所以は、会話をやったと思ったら、次は構成劇だった、みたいなことなのだが、こちらとしてはちょっぴり着る服を変えたぐらいのつもりだった。が、人によってはそうではなかったらしい。いつだって同じ服がわかりやすいらしい。出来れば、同じように見える服でも次々とグレードが上がっていくというのが望ましいらしい。3点セットで 9800円のスーツが、いつの間にかオーダーメイドになっている、みたいなこと。それもわかる。とつてもすてき。だが、わたしは、スーツ屋になる気はないのだ。ごめん!と、いうように、時折すねたりしながら10年やってきた。芸風が定まっていなくてもいいので、できるだけそう言われないように努めます、と思う。観てくれる人のことがキラいなわけではない。むしろ、いや、当然大好きだ。

intro という名前は、観てくれた人のそのあとの時間の introduction になりたくて、つけた。芝居が終わったあと、お酒を呑むとか、ごはんに行くとか、帰り道にいつもは買わないものを買うとか、観てくれた人にそういうようなことが起きたら、わたし

はとてもしあわせだ。だから、あんまりわたしたちそのものに主張がないのが良い。派手じゃなくて良い。ととてもとて速く行っても、そのひとの日常に帰ってゆけるものになりたいいつも思っている。

ひょっとしたら、いつも少し欠けたものを作っているのかもしれない。「芸風が定まらない」とか、独特、だとか言われたりするけど、ひょっとしたらわたしは演劇をつくっているわけではないのかもしれない、と思う。

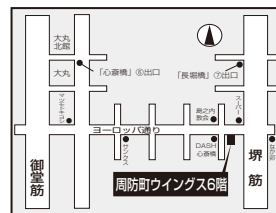
昨年の12月、ウイングフィールドで公演をした。ツアーで初めての劇場に行く、場所とうまくいかないことが多々あるものなのだが、まったくそういうことがなく、ホームの劇場だったかな…と錯覚するほど。なんと懐の広い劇場だと思いを福本さんに伝えると、ただの真っ黒な場所をあなたの色で染めてくれてありがとう、とおっしゃる。

このブラックボックスは、じつは真っ白だったり透明だったりするのだと思う。どう使ってもらっても構わないよ、と柔らかい姿勢でそこに居る。ああ、こうなりたいなあと思つた。やっぱりわたしは、演劇をつくっているんじゃないかもしれない。

と、なんだか若さ故の発見、のような書き方をしてみました。そうではない。自分自身への単なる疑いである。だいたいもう若くはない。実際、いったいなを作ろうとしているのだろう、という問いからクリエイションは始まり、この作品はどこに行くのだろうと思つながら、作品に連れていってもら。だから、スーツ屋になっても、生地が伊勢丹柄のほうが見える生地なら伊勢丹柄にしてしまうのだ。半ズボンスーツとかにしてしまうのだ。ああ、スーツ屋になりたい。

さて、外は、雪で真っ白です。わたしひとりではつくり得ない景色がいづつも観たい。

(intro 代表、劇作家、演出家)



次代を担う表現活動を、微力ながら支援します。

す おう まち
周防町ウイングス